

W E P

VOL.
ウェブ
俳句通信

111

俳句通信

特別作品25句 池田澄子「八月来」

特集〈俳人5人の30句競詠〉

坪内稔典「できたての山脈」

岸本尚毅 「地べた」

小島 健「隠岐・出雲」

高山れおな「新作二章」

星野高士「真偽」



【鑑賞会】

矢野景一

第4句集『和顔』を読む

出席者＝菅野孝夫・中村幸子

【3人競詠30句】

浅井民子「青葉潮」/蘭草慶子「大切」

今瀬一博「陶の町」

●作品●佐藤暎二・能村研三・渡辺純枝・松尾隆信・本井 英・安原 業・山元志津香・檜 紀代・瀬戸清子・
中村正幸・津森延世・鳥井保和・山西雅子・脇佐和子・吉田光政・間島あきら・広渡詩乃 ほか

A photograph of a forest with a path of yellow trees leading up a hill. The path is formed by a series of bright yellow trees, possibly larches, that stand out against the surrounding dark green evergreen forest. The path starts in the lower left and leads diagonally upwards towards the center of the image. The background is a dense, dark green forest that covers the rest of the hillside. The lighting is soft, suggesting a late afternoon or early morning setting. The overall mood is serene and peaceful.

野麦峠の秋

写真／樋口一成

特別作品25句

八月来

池田澄子

リラ咲いて心の水っぼい夕べ
初蝶にそよかぜ彼我にスマートフォン
元氣ならよし蛙歩くも跳ぶもよし
立つに次々よいしよと言って花筵
恋ではなくて夕焼色の春スカーフ
行く春というには暑し橋長し

特集

〈俳人5人の30句競詠〉

いまの俳句の世界でその活躍ぶりが目立つ5人の競詠30句です

切られたら二つになってミミズたち

坪内稔典

絶壁の遠流の島や夏怒濤

小島 健

みちのくの夏野は底を見せざりし

星野高士

永き夏始まつてゐる地べたかな

岸本尚毅

みどりの山へ叡山電車みどり色

高山れおな

青葉潮

浅井民子

飛びたがる帽子と幼な海南風
わたつみの神はくら倉一尺青葉潮
沖繩の海風ゆたか鳳梨アナナス切る
海を行くたてがみ欲しき大南風
炎帝の海に生まるる真白き帆
白シャツや折りて畳みて潮位表
子午線の街を遠見に夏の航
雑踏に父を探せりパナマ帽
羅の傘傾げ過ぐ聖橋

あさい・たみこ
昭和20年(1945)12月14日・岐阜
県生まれ 平成10年「帆」入会
関口恭代に師事 22年「帆」主宰
を継承 俳人協会評議員 句集に
「黎明」「四重奏」



大切

蘭草慶子

水の湧く如くこぼれて沙羅の花
 さみだれや白蛾はりつく夜の扉
 地下鉄の窓にわが顔梅雨寒し
 光の木影の木青葉揺れやまず
 片雲の一つは吾か大夏野
 雨ためて蓮の葉脈しろがねに
 どつと雨こぼして蓮の起ち上がる
 葉を分けて舐先の進む蓮見かな
 葉畳の外れに一花蓮見舟

いぐさ・けいこ
 昭和34年（1959）9月29日・東京
 都生まれ 大学時代 俳句研究会
 白塔会において山口青邨に師事
 現在「秀」「星の木」所属 俳人協
 会幹事 日本文藝家協会会員 句
 集に「野の琴」（俳人協会新人賞）
 「櫻騒」（星野立子賞）等がある



陶の町

今瀬一博

渦 描く 益子 大皿 夏燕
十葉に鋭き水の流れかな
蟬の羽化音一つなき陶の町
夏椿雨追ひ越して落ちにけり
茅葺きの主 跣足の陶芸家
青葉木菟手足出さうな登り窯
茅葺きのゆがみは余力夏旺ん
みんなやじりじり上がる温度計
炎天を来て藍甕の深さかな

いませ・かずひろ
昭和40年（1965）10月9日・茨城
県生まれ「対岸」「沖」同人 俳
人協会会員 句集に『誤差』（第37
回俳人協会新人賞受賞）





前列右から三吉氏、遠藤氏、羽村氏
後列右から星野氏、吉田氏、藤本氏

ゲスト 遠藤酔魚・羽村美和子
三吉みどり・吉田幸敏

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第52回目です。ゲストは「豈」同人・「ペガサス」代表の羽村美和子さん、「秀」同人・「香雨」会員の三吉みどりさん、「葉」同人の吉田幸敏さん、「あゆみ」同人の遠藤酔魚さん。ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 今日はお集まりいただきありがとうございます。ご自分の句でも、知らん顔して評をしてください。今日の高点句は4点句。

◎◎◎◎

昼顔のからむ転轍機のレバー

幸敏 「転轍機」は汽車の方向を変えたりして、貨車庫みたいなところにあるんじゃないかなと思うんですね。いまはあまり使わなくて、ほっぽらかしてある。そういうところに「昼顔」が絡んでいる。真つ昼間の風景として、さもありなんと、肯える句だと思いました。

羽村 「転轍機」という言い方を知らなかったんですけど、「ポイント」のことだと、いま、調べて分かりました。レールの向きを変えるものなんですね。「転轍機のレバー」に絡むということは、ちょっと、深読みをすれば、あたかも「昼顔」